

9月6日 年間第 23 主日

## 癒す手

マルコによる福音書 7 章 31 ～ 37 節

<sup>31</sup> それからまた、イエスはティルスの方角を去り、シドンを経てデカポリス地方を通り抜け、ガリラヤ湖へやって来られた。<sup>32</sup> 人々は耳が聞こえず舌の回らない人を連れて来て、その上に手を置いてくださるようにと願った。<sup>33</sup> そこで、イエスはこの人だけを群衆の中から連れ出し、指をその両耳に差し入れ、それから唾をつけてその舌に触れた。<sup>34</sup> そして、天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、「エッフアタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。<sup>35</sup> すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきり話すことができるようになった。<sup>36</sup> イエスは人々に、だれにもこのことを話してはいけない、と口止めをされた。しかし、イエスが口止めをされればされるほど、人々はかえってますます言い広めた。<sup>37</sup> そして、すっかり驚いて言った。「この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてくださる。」

他の朗読：イザヤ 35:4～7 詩編 146:7～10 ヤコブ 2:1～5

### Lectio …読む

イエスはこの男の人をいやしたときに、彼のためふたつの問題を解決しました。聞くことも、話すことも出来なかったその男は、どちらの不自由からも解放されたのです。それは全く音のない隔離された世界に住んでいた一人の男が、今や完全に共同体に参加できるようになったことを表しています。

男の長きにわたる音が聞こえない苦境は、イエスの「開け」という命令によって吹き飛ばされました。マルコは癒しの言葉にイエスが話していたアラム語を使います。しかし、その奇跡を起こしたのは言語や言葉の選択ではなく、イエスの神的な癒しの力でした。

福音記者は、イエスが奇跡を行うのは儀式や手品や悪魔の力によってではなく、完全に神の力によってであると明らかにしています。イエスの中で働いている神の力が、癒し、赦し、そして救いを実現するのです。

マルコはこの、耳も聞こえず口もきけない男の癒しを記録している唯一の福音記者です。この奇跡がどこで起こったかは明らかではありません。しかしイエスが旅をしていた地域を考えると、その男の人はユダヤ人ではなかった可能性もあります。イエスはこの男を連れてきて癒しを願った人々の信仰の故に、同じようにその男も癒しました。イエスとイエスに備わる神の力は救いのためにあり、国籍や文化背景に関わらず全ての人を救うためにあるのです。

人々は興奮しています。彼らは喜びや賛同の気持ちを抑えきれず、イエスの命令を無視して、その奇跡について皆に話をしてしまいます。

### Meditatio …黙想する

イエスがその男の人を癒す準備をしているとき、その男は何を思っていたと思いますか。何故イエスはその男を群衆から連れ出したのだと思いますか。

この男を連れてきた友人が果たした役割についてよく考えてみましょう。何故イエスはこの男の友人たちに、この奇跡について話さないように命令したのでしょうか。

この奇跡がもたらしたものは何でしょうか。

## Oratio …祈る

詩編 146 編は神の約束と誠実さをほめたたえる美しい祈りの言葉です。希望と次から次へと起こる奇跡について聞くことの期待感であふれています。出来るなら、あなたの人生で起こった、神の介入による奇跡的な出来事を思い起こし、共に感謝を捧げましょう。時として、本当に必要なことに対して神から答えが来るのには、長くかかりすぎると感じるかもしれません。詩編作者は 6 節で主は「とこしえにまことを守られる」と語っています。希望を失わず、神を信頼しましょう。

## Contemplatio …観想する

神はいつでも、どこでもご自身の意思で癒されます。第一朗読のイザヤ 35 章 4～7 節は、神はご自分の民を救い、癒すであろうと励まします。ここで述べられたふたつの奇跡を、イエスは今日読まれるひとつの奇跡で成就されました。

ヤコブ 2 章 1～5 節は、神は外見で人々を判断せず、私たちもそうすべきではない、ということをお思い出させてくれます。私たちは誰でも愛し、誰にでも等しく仕えるべきで、相手の地位によって影響されるべきではありません。